

第6分科会

教職員・学生間のコミュニケーションを活性化する
ICT活用戦略

第1グループ

「“困っている”学生をいかに救い上げるか？」

～多様化する学生の支援方法について～

2010年11月12日(金)

討議内容

•ヴィジョン

向き合える 支え合える

あったかキャンパスへ向けて

•テーマ

「“**困っている**”学生をいかに救い上げるか？」

※一言で「学生」と言っても、その**性格・背景は多種多様**



解決するには・・・

- 自分の意見を主張したい！
- コミュニケーションに自信がない
- どこに情報があるかわからない
- 相談相手が居ない
- 時間がない！
- 事務室に相談に来られない

- (1)コミュニケーションの場の提供
- (2)コミュニケーションスキルの向上
- (3)自己解決のための仕組み
- (4)学生周囲の気づき

1. コミュニケーションの場の提供

目的 : 教職員・学生間における「双方向コミュニケーションの場を提供」する事により
情報提供・情報共有を図る。

【ICT活用する】

- ・SNS : 掲示板・Twitterとして利用出来る。人と人とのつながりを促進・サポートするコミュニティ型のWebサイト。入学予定者に対し不安を取り除く等(在学生、教職員、卒業生が管理)
- ・ポータル : 履修登録、シラバス閲覧、休講情報、教員出講状況、BBS (Bulletin Board System)
- ・LMS : オンデマンド(申請制:復習利用)、レポート提出、掲示板
- ・携帯電話 : 即座にメールを確認。休講情報、教員出講状況確認が行える

【ICT活用しない】

- ・相談窓口 : 就職活動、履修登録、学生生活、留学、先輩との相談会
- ・イベント(学祭、茶話会) : 学生と教職員間コミュニケーションの活性化を図り気軽に話せる環境を作る
- ・挨拶 : コミュニケーションの基本を身につけてもらう
- ・クラブ/サークル : 学生同士、先輩との上下関係を培う

2. コミュニケーションスキルの向上

目的 : コミュニケーションスキルを向上することにより、学生・教職員のコミュニケーションへの積極的参加を促進させる。

【ICT活用する】

- ・ e-Learning: コミュニケーションルール・スキルのセルフ学習
- ・ ポータルシステム: コミュニケーションスキルの一問一答(気軽な学習でポータル利用率も向上)
- ・ SNS: コミュニティ活用(趣味、出身校、出身地といった共通属性を準備)
- ・ 仮想空間: 匿名性を利用したコミュニケーション

【ICT活用しない】

- ・ セミナーや講義での体験型学習(しかも必修)
- ・ 教職員の学生指導方針を行動レベルまでブレイクダウンし制度化する
- ・ ピア・サポーター制度を設けて敷居の高さを緩和する

3. 自己解決のための仕組み

目的：多様なツールを充実させることにより、学生自らが解決できる能力を醸成する

【ICT活用する】

- ・FAQサイト・システム: アクセスしやすい場所に配置し、画面上で自己解決させる
- ・携帯版FAQ: 見たいときにすぐ見られるように配慮する
- ・性格診断、心理診断: 自分の現状を客観的に知ることによって問題の解決につなげる

【ICT活用しない】

- ・マニュアル: 使う側に配慮したわかりやすさを重視する
- ・掲示版: 見てもらえる工夫(学生の動線上に配置)

期待される効果

- ①学生の社会人基礎力の養成につなげる
自己解決の経験を繰り返すことにより、「課題発見力」「主体性」「発信力」を身につける ⇒ 受身で無くなる ⇒ 学士力向上の一環
- ②教職員の省力化 : 真に支援を必要としている学生の支援に注力できる

4. 学生周囲の気づき

目的：学生情報の共有化と気づきの相互作用により、要支援学生を顕在化し、フォローの早期化を図る。

現状：

授業や窓口、サークルに来ている学生：表情や態度から必要な支援を感じ取る。

授業欠席、窓口に来ていない学生：データ(学籍状況:休学、出欠簿)から支援を必要としている学生を見つけたことによって、**困っている学生に気づく。**

【ICT活用する】

- ・学生カルテ:情報の電子化・集約化により予兆を自動検出
- ・学籍簿:休学情報を通知
- ・授業出欠簿:欠席の続く学生をピックアップ・保護者への情報提供
- ・履修登録:登録に来ていない学生をリストアップ

【ICT活用しない】

- ・学生相談状況(守秘義務に留意)

期待される効果：フォローの早期化として

直接学生と話すために、いろいろなアクションがある。

- ・電話
- ・Eメール
- ・手紙
- ・保護者・友人・教員に連絡を依頼する
- ・家庭訪問



効果

- ・困っているままにしない
- ・退学につなげない



安心感

まとめ

“困っている”学生 多様化する学生

どれだけ時代が変わっても、学生が自ら解決する能力を備えていることを信じて、その能力を引き出すためにもコミュニケーションをとり続けることが大事

そのための手段・ツールとしてアナログとデジタルの両面を活かす

ICTは時間、場所、利害関係といった、コミュニケーションの障壁となるものを取り去るきっかけとなりうる

しかし深刻に支援を必要としている学生には、アナログ対応が不可欠

ICT・非ICT、対面・非対面をうまく組み合わせながら
これからの大学の維持・発展に向けて

私たちは挑戦していきます！



メンバー紹介

ご清聴ありがとうございました

進行



直井 哲也

Naoi Tetsuya

書記



藤岡 和人

Fujioka Kazuto

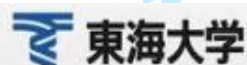
発表



瀬戸 麻由佳

Seto Mayuka

メンバー



宮寄 諒

Miyazaki Ryo



杉谷 源太

Sugitani Genta



大艸 優美

Okusa Yumi

報告



給田 佳名子

Tabeta Kanako

PPT



庵原 誠一郎

Iohara Seiichiro